

つきたい力

- ・自分の思いや願いを言語化し、相手に合わせて伝えることができる力
- ・自ら問いをもち、その解決に向けて仲間と話し合い解決する力

取組みの概要・ポイント

- (1) つきたい力を明確化した単元計画とモデル文(エラーモデル文)の提示
- (2) 初発の感想から問いを出し合い、集団から個人で解決する力の育成
- (3) 「国語の記録」「学びの場を選択」を通して自らの学びを調整し、粘り強く取り組む素地づくり

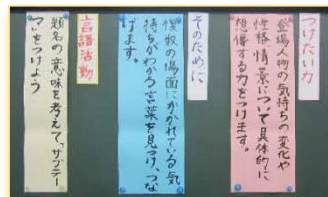
茨木市HP「国語の授業づくり小学校の取組みについて」



学びに向かうためのたて

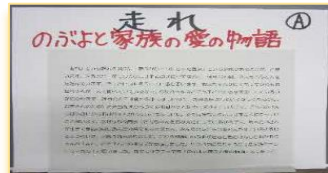
① 単元計画を立てる

- ・第一時を単元開きとし、第二時で単元計画とともにゴールを明確にする
- ・単元計画は常に子どもたちと共有し、必要があればその都度修正を行った。



② 「学習課題」を明確に提示

- ・「つきたい力」「そのために」「言語活動」の3つを色分けして毎時掲示し、子どもたちと確認する
- ・子どもたち自身が「なんのためにこの学習をしているのか」を意識できた



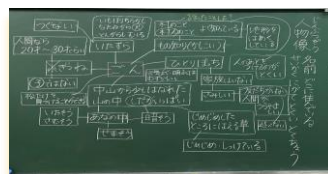
③ モデル文の提示

- ・言語活動の確認後、モデル文を提示する
- ・その際「エラーモデル」も提示し、なぜエラーなのかを確認する
- ・つきたい力を確認しながら見通しをもち、言語活動への意欲を持たせる



④ 思考ツールを活用

- ・学びを深めるためのさまざまな「思考ツール」を知り、学習が進むと自分たちで思考を深めるために必要なツールを選択する



個別最適な学び・協働的な学びのしかけ

① 「わたしの問い」をもつ

- ・初発の感想をもとに立てた「わたしの問い」は読みすすめるうちに子どもたちが更新していく

「わたしの問い」はつきたい力に向かうための「一人ひとり」の問い。最後にはその問いを集団→個人で解決していく。



② 学びの場・学び方を自分で選択

- ・「考えの形成」段階で各自で学び方を選びながら、思考を深める

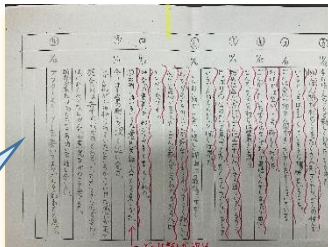
「一人で思考」「グループで考える」「板書を利用して考える」「今までのノートを見返す」など自分で学び方を選ぶ。



③ 「ふりかえり」を「国語の記録」として残す

- ・新しい発見、友だちからの言葉で考えが深まったことを記録する

明日の自分へのメッセージとして「この記録を読んだら今日、何を学ぶのかわかるように」示す。



取組みを通しての子どもの変容

- ① 国語の授業が始まる前から教科書や国語の記録を開き、学びに向かう子どもたちが増えた。グループ活動から学びを深め自分でまとめる力がついた。
- ② 「国語アンケート結果」話のつながりを意識し、大事なことを考えて、読んだり聞いたりしている。85.6%(4月)→90.8%(12月)
→アンケートコメント欄より「国語がにがてだったけどどんどん好きになった」「言語活動が楽しい。力がついた」「図を書いて考える国語も楽しい」